

災害メモリアルKOBEBE 2010

今語る、
15年の時間

2010

2000

2001

2009

2002

2008

1995

1996

2007

1998

2006

2004

2005

1997

テーマ：今語る、15年の時間

日時：2010年1月9日(土) 13:00~17:30 会場：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ：災害メモリアルKOBEBE実行委員会(人と防災未来センター 事業課内) TEL：078-262-5068 URL：http://www.dri.ne.jp/

主催：災害メモリアルKOBEBE実行委員会 共催：阪神・淡路震災記念 人と防災未来センター/京都大学防災研究所/兵庫県
後援：神戸学院大学/兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞社/読売新聞大阪本社/毎日新聞社/産経新聞神戸総局/神戸新聞社/
NHK神戸放送局/毎日放送/ラジオ関西/NPO法人「人・家・街 安全支援機構」(予定)

この事業は、「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受けて実施しています。



参加無料

■ 災害メモリアルKOBÉとは？

災害メモリアルKOBÉは、阪神・淡路大震災から10年、「安全/安心でこころ豊かな社会づくり」を目的に開催されてきたメモリアルコンファレンス・イン・神戸の精神を引き継ぎ開催される集まりです。災害メモリアルKOBÉは、来るべき東海・東南海・南海地震を見据え、「市民の防災力を高める」をミッションとし、「次世代の育成」「世代間交流による語り継ぎ」「被災者学の確立」「地域間交流」を行うことを目的としています。

プログラム

13:00 **開会のあいさつ** 実行委員会会長 河田恵昭

13:10 **作文発表「震災のお話を聞いて」**

〈第1部〉ビデオ上映 特別授業—
発表：「神戸市立春日野小学校（5年生）」
〈第2部〉ビデオ上映 特別授業—
発表：「神戸市立長田中学校（2年生）」

15:10 **防災ダンス
「はばタン カーニバル」**

振付け：黒崎ひろみ（名古屋大学 助教）
出演：はばタン、兵庫県立舞子高等学校

15:45 **パネルディスカッション
「今語る、15年の時間」**

〈第1部〉
コーディネーター：牧 紀男（京都大学 准教授）
パネリスト：井上 孝紀（震災当時 神戸市立鷹取中学校2年生）
古村 光平（震災当時 神戸市立鷹取中学校2年生）
樽本 信浩（神戸市立長田中学校 教諭）
向井 元（神戸百年記念病院 看護師 兼 臨床工学技士）
山下 美香（神戸市立医療センター西市民病院 看護師）

16:30 **〈第2部〉
「語り継ぎの今
～災害メモリアルKOBÉのこれから～」**

コーディネーター：矢守 克也（京都大学 教授）
パネリスト：小島 汀（コース震災語り部）
諏訪 清二（兵庫県立舞子高校 教諭）
船木 伸江（神戸学院大学 講師）
牧 紀男（京都大学 准教授）

17:30 **閉会**

※敬称略、パネリストは、第1部・第2部とも五十音順

■ 今年のテーマ

今年の1月17日で阪神・淡路大震災から15年を迎えます。当時、小学生・中学生だった子供達も既に成人を迎え社会で活躍するようになっています。当時、災害対応の最前線で働いていた40代の人たちはそろそろ定年の時期を迎えています。あの日から我々は確実に15歳、歳を重ねています。今年の「災害メモリアルKOBÉ」では、「今語る、15年の時間（とき）」をテーマに、15年という時間（とき）について考えてみたいと思います。15年という時間（とき）をその場で再現できるということも「語る」ことの力です。当時、災害対応の最前線で活躍していた人、当時生徒・学生だった人がお互いに語り合うことで、15年という時間（とき）が実感できる場をつくりだしたいと思います。

震災当時、その学校に通う中学生として避難所となった学校で避難所運営のボランティアをした生徒とその学校の先生。地震で5階が上の階に押しつぶされるという被害が発生した西市民病院で看護師をしていた女性と当時、医療専門学校の生徒としてボランティア活動していた男性、この2組5人の特別授業を受けた小中学生たちが感想文を書いてくれました。地震から15年という時間（とき）を小中学生たちはどのように受けとめたのでしょうか？お聞き下さい。



ゲスト紹介：黒崎ひろみ（名古屋大学 助教）

四国の徳島大学出身で、現在は名古屋大学に勤務。「楽しい防災」をテーマに学校防災教育のすすめ方を先生方と一緒に考えてきました。中学生を対象とした防災教育に行き詰まったときに思いついたのが避難の方法と手順をダンスの振り付けにアレンジした「ストリートダンス避難訓練」。なんとが窮地を切り抜けた上、「インパクトが強すぎた」ことがきっかけとなり、黒崎＝ダンスのイメージが定着。今や、災害の種類や体力の違いに応じて、ダンスの種類は、80種類以上。今回は「はばタン」をフィーチャーしたダンスを発表予定です！




震災からの15年という時間（とき）を経て、震災の経験は今の生き方にどのように反映されているのでしょうか？また、この15年とは何だったのでしょうか？

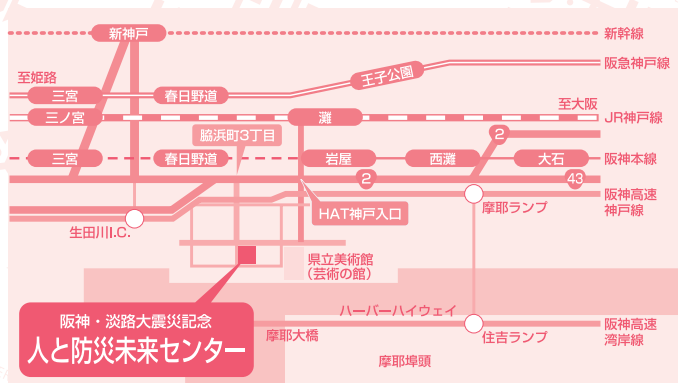
第1部では、小中学生に特別授業をしていただいた2組5人の方をお招きし、この15年、震災が残したモノも含めてじっくりとお話をうかがいます。

第2部では、「災害メモリアルKOBÉ」の未来について語ります。中学生以下がすべて震災を知らない世代になった今、震災を大人あるいは子どもとして経験した世代と、震災未体験の世代とをどうつないでいくかが問われています。「語り合い」、「語り継ぎ」、「語り結び」をキーワードに考えます。



■ 受付／会場アクセス

- **受付** 当日、会場にて受付を行います。
- **会場**  **阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター**
兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2（右地図参照）
- **交通** 鉄道／阪神「岩屋」駅、「春日野道」駅から南へ徒歩約10分
JR「灘」駅南口から南へ徒歩約12分
阪急「王子公園」駅西口から南へ徒歩約20分
バス／阪神電鉄バス JR「三宮」駅前から約15分
神戸市営バス JR「三宮」駅前から約20分



● お問い合わせ先 災害メモリアルKOBÉ実行委員会事務局（人と防災未来センター 事業課内）Tel:078-262-5068 Fax:078-262-5082 <http://www.dri.ne.jp/>